

自解の公式

ねしこ

Rokarism

現代文学濾過主義

「現代文学濾過主義」

通称「ロカリズム」

個人の“汚れた感情”や“未整理な痛み”を、詩的言語・比喩・構造を通じて濾過し、作品として“美しく成立させる”ことを旨とする表現スタイル。

- 1 「級數」
- 2 「定義域外」
- 3 「 f (私)」
- 4 「 $\sqrt{}$ π 」
- 5 「臨界」
- 6 「逆ベクトル」
- 7 「 $t \rightarrow \infty$ 」
- 8 「 \int 」
- 9 「 \neq 」
- 10 「反比例」

「級数」

ずっと後悔してる

一度考えると生きていること全てに

後悔したくなる

後悔と頭痛が際限なく廻る

それでも考えることをやめられないのは

後悔が鎮痛剤と同じくらい心地よいことを

覚えてしまつたから

「定義域外」

私は逃げ方を知っている

私は吐き出し方を知っている

私は終わらせ方を知っている

それでも何一つできないのは

私は知っているだけだから

「f(私)」

私はいつから話しているのだろう

私はいつからここにいることを決めたのだろう

私はいつから笑っているのだろう

この笑顔は誰のものだ

この言葉は誰のものだ

この場所は誰のものだ

この体は誰のものだ

この私は誰のためのものだろう

「 $\sqrt{\pi}$ 」

二次方程式とか
円周とか
そんなことよりも
私が消える価値を
脳裏で擦れるほど
計算している

「臨界」

息が詰まれば詰まるほど
生きている実感が溢れるのは
終わりへの一歩ということなのか

「逆ベクトル」

人の波に飲まれていくのが大人ならば
自己嫌悪に呑まれる子供でいたい

「 $t \rightarrow \infty$ 」

『時は金なり』と言うのならば
それに見合った退職金を
渡して欲しいと思う
わがままなんだろうか
満足な踏ん切りもつけられず
自分の価値も確かめられず
最期の最後に走馬灯がよぎる
それだけは勘弁してほしい

「ʃ」

汚い気持ちを吐き出すと
それに快感を覚えて繰り返す
大して汚れてもないのに
わざわざ粗探しして無理に触る
気持ち悪い

「≠」

好き ≠ 得意なのに
得意=好きと思うやつ
それは本当ににそうなのか
そう言い聞かせてる
だけじゃないのか
好きってなんだ

「反比例」

『好きなことをしなさい』と
『貴方を思つて』は反比例だ

貴方の心が濾過されるまで、
私はここにいる